幼兒に於ける習慣の問題

山下俊郎

子供の見方の革新といふ事が最近頻りに唱へられてゐる。今迄の子供の見方は、子供を子供として獨り切り離して、つまり子供の現在生活してゐる環境といふものから切り離して、いはゞその實際の生活の場面から遊離した一個の生物として見てゐたといふのが、根本的な特徴である。之を生物學的な兒童觀とでも名づける事が出來やう。之に對して新しい子供の見方は、子供をその實際に生活してゐる場面のうちに置いて見やうとする。子供はそのまわりの社會との交渉のうちに成長する。その周圍に社會といふものがあつて子供は始めて健全な發達をする。この社會は唯普通言つてゐる廣い意味の社會だけでなく、兩親もきょうだいもお友達も、すべて子供の接觸する凡ゆる人々を意味してゐる。この社會が子供を成長させ發達させるのである。この樣な見方を廣い意味で社會的兒童觀といふ事が出來やう。ピアジェにしても、ビューラー夫人にしても、叉はゲシタルト心理學徒にしてもみんな廣い意味で社會的兒童觀を持してゐるといふ事が出來る。――幼兒教育の組織的方法としての幼稚園教育がこの兒童觀に新しい心理學的基礎づけを持つ事は注意すべきであらう、然しこの事を詳しく說く事は本稿の目的でないからこゝには觸れない。

この社會的兒童觀の說く所は全く正しく、從來の子供の見方に缺けてゐた、少くとも充分に注意されてゐなかつたものを前景に出して主張してゐる所が注目せられなければならない。然し論者の言ふ如く、生物學的兒童觀を全然排斥する事は少くとも幼兒教育に於ては妥當でない。幼兒に於ける教育の問題はその身體的側面を度外視しては少くとも重大なる見

當外れをしてゐるといふの外はない。この事は幼兒の養護といひ保育といふ言葉そのものゝうちにおのづから根據を持つてゐる。教育といふ仕事全體が一の社會的機能なのだから幼兒の教育に於ても社會的見地が指導的位置を占めなければならないが、その半面に生物學的存在としての兒童への顧慮が充分になされなければならぬ。從つて幼兒の教育に於ける技術的問題として最も重要な事は、この二つの見地を如何に交錯せしめるかといふ所に存する。

この樣な根本的問題の具現されてゐる最も典型的な問題として私は幼兒に於ける日常生活の基本的習慣の問題に就いて少し述べて見たい。

こゝに基本的習慣といふのは、例へば排泄、食事、睡眠、着衣、清潔整頓といふ樣な、手つとり早く言へば身のまわりを處理する習慣を意味する。これ等の所謂基本的習慣なるものは從來學者によつて說かれてゐる樣に、少くとも滿五歲に至る迄充分に完成されてゐなければならないものなのである。この樣な習慣は子供が周圍の人の世話にならずに一人前の獨立した人間としての門出を完成する第一歩を意味する。よく世間の母親が考へてゐる樣に放つて置いてもこれ等の習慣は一定の年齡になると自然に出來上る。所が子供のなすがまゝに放つて置く家庭に於てはこの樣な習慣は小學校入學迄出來ないのが先づ普通である。子供の成長發育は結局、子供が獨立の人間として社會人たらんとする一の行程であり、教育はこの行程を樂にしてやらうと言ふ一つの仕事なのである。子供が自分の身のまわりの事を人手を要せずに獨りで處置する事は子供がやがて一人の社會人となつて行く以上遲かれ早かれ出來なければすまない事なのである。さうすると、出來る事なら早くこういふ習慣を身につけて置く事こそ最も望ましい事なのである。所がこの樣な基本的習慣を出來る丈早く完成するには一方には子供がその時期になつたらこういふ事が出來得るかといふ事をはつきり知つて置く事を必要とする。凡て習慣にはその出來上るべき時期、卽ち潮時なるものが存する。この時期を外しては習慣の教育といふ事は極めて

困難である。この基本的習慣は前に述べた如く、小學校入學が滿六歳であることよりするも遲くとも滿五歳になる迄に教養する必要が社會的見地よりするも必要であり、幼兒の身心の發達を考慮する教養の可能性から言つても幼兒期中に完成せられる事が可能なのである。かゝる基本的習慣の教養こそ幼兒期に於ける最も重要なる保育項目の一である。然るに現在我が國の母親大衆は、この樣な點に就いて殆んど無關心であり、無知であると言つてよい。私は目下これ等の基本的習慣成立の狀況を診斷すべき調査票を作成し、現在我が國の幼兒にどの程度迄これ等の習慣が教養されてゐるかを調査しつゝある。その統計的結果に就いては將來資料を廣く蒐集した上でこれを公表したいと考へてゐるが、現在迄手許に集つてゐる資料に就いて見れば、極めて寒心に耐えない狀態にあると言つてよい。

之等の資料の中から二三の例を拾つて見やう。或る三歳八月の男兒はおしつこをさせるのに未だに母親が抱いてさせてゐる。而もこの母親は子供が既に片假名四十八字全部を讀めて平假名迄少しは讀める事を鼻高々と私に吹聽してゐる。之は最も著しい例の一であつて母親が幼兒の教育に對する根本的態度に於て最も極端な誤謬を侵しつゝ、而もこれに自ら氣付かざる最も典型的なるものである。また驚くべき事は六歳になつても洋服の釦全部を掛けられる子供の極めて少ない事である。四歳になつても添寢しなければ寢ないとか、部屋に燈りがついてゐないと寢ないといふ子供が見出されるし、またお箸の使へない子供がゐる。六歳になつても齒を磨いたり、顏を洗つたりする事の出來ない子供が居る。之等の習慣が子供に出來てゐない事は驚くべき事であるが、それより更に驚くべき事は母親の側にこれを教養しやうとする意圖と態度のない事である。これ等の習慣が兒童の側にあつて成立する爲には種々の精神的身體的能力の發達が前提されなくてはならぬ。而もこれ等の發達の段階から言へば教養の宜しきを得るならば當然習慣を完成する事は幼兒期のうちに行はれ得る筈なのである。

この事は同じ年齢の兒童で幼稚園へ行つてゐるものと行つてゐないものとを比較する事によつて充分實證される。幼稚園へ通つてゐる子供の場合には、これ等の習慣の教養が幼稚園によつて促進せられ、强要せられる爲にその成立の狀態が概して良好である。また家庭によつて母親の態度がかゝる習慣の教養に意圖が向けられてゐる場合には、同じ年齢の子供に於ても概して習慣が充分に教養せられてゐる。これ等の事實は幼兒期に於てこれ等の習慣の教養が可能である事を事實を以て證明してゐる。この事は同時に幼兒期の身體的精神的發達の樣相からもこれを充分に裏づける事が出來るのである。

然しこれ等の基本的習慣はその種類によつて教養せらるべき時期が一定して居り、この時期の規準及び教養の順序、方法を心得てゐる事は、母親にとつてもまた幼兒の保育に携はる如何なる人にとつても必要不可缺のものである。

幼稚園はその創始者フレーベルの意圖に於ては、母の學校として、その幼兒の教育の方法を指導する意味を持つてゐた。この事は今日に於ても忘れらるべきでなく、また我が國の如く、幼兒の教育に對する關心の極めて薄い母親大衆に對しては特に決して忘れらるべきでない。私が今こゝにとり上げた幼兒の基本的習慣といふ樣な小さな問題に於ても右の樣な幼稚園の意義は沒却されてはならないと思ふ。而してこの習慣の問題に就いて幼稚園に於て執らるべき方法の私案を述べる事を許されるならば、入園の始めに於て基本的習慣の各側面を各幼兒に就いて洩れなく調査し、その成立の狀態を檢査し、入園といふ幼兒にとつて極めて重大な意義を有する一轉機を利用して、その缺けたる方面を特に教養し、また誤れるを匡正し、出來上つたものを助長して行く事が必要である。之等の諸點は從來の幼稚園の保育に於ても無意識の裡に行はれて來た事かも知れない。然し、私はこの問題を意識化し、組織化する事が必要であると思ふ。この樣な習慣は幼兒の集團生活に於ては相互の模倣によつて容易に形成され易い。而もまた半面に於て破壞され易くもある。この幼稚園特有の機能を利用して、之を意識化し、組織化して、更に家庭殊に母親の指導に迄進む事が强調されてもよいと私は考へる。(昭十、十一、四)